

2023-2024 理事通信



24年6月1日 第27回東日本区大会 バナーセレモニーの際
(とかちプラザ レインボーホールにて)

理事メッセージ

23-24 東日本区理事 山田 公平

6月1日、第27回東日本区大会が、北海道帯広市で行われました。参加者約320名を得ました。また、西日本からの参加者が64名も応援してもらいました。晩さん会の最初の乾杯は、日本区時代の理事でもあった京都ウエストクラブの森田恵三さん(90歳)が元気に、張りのある声で乾杯の音頭を取っていただきました。

大会の前日にはゴルフコンペと前夜祭が盛大に開かれ、大会当日午前中は代議員会が行われました。今大会は半日(6月1日の午後のみ)で行う短い時間です。それでも、記念講演には南極観測隊の料理人であった西村淳さん(作家、料理人)が、南極での体験を面白く、工夫して話してもらえました。

1時間を超える講演と30分以上のおやつタイム(地元の誇る銘菓と牛乳)を取り、ゆったりした気分でもありました。開会式、東日本区アワーIとII、役員引継ぎや閉会式などを短くまとめ、これまでの区大会の流れとは違う形で行われました。

楽しみの晩餐会では、320人が丸テーブルに分かれてゆったりと楽しい食事ができました。特別料理でアスパラ、有名なカレーや豚丼という独特な料理、握りずしや柔らかいステーキなど北海道の食の豊かさを味わうことができました。晩餐の後には地元子どもたち50人以上そろって元気なよさこい音頭を披露してくれました。その後も2次会、3次会が非公式に続き、区大会の幕を引きました。

翌朝7時半からの礼拝には50人位来るかなと予想していましたが、なんと100人近くの参加者が参加、共に祈る時を持てたことは喜びでした。十勝クラブはじめホスト役をして下さった北海道地域のクラブの方々への協力に感謝です。本当に素晴らしい区大会となりましたことを報告し、ホストの皆さんにお礼申し上げます。

contents

- ・理事メッセージ……………1
- ・代議員会で行われた意見交換……………3
- ・2024-2025年度 主題……………4
- ・今後の予定……………4
- ・入会者、JEF 献金者……………4
- ・パレスチナ募金、能登地震募金……………4

2024年06月15日発行

張り詰めた緊張（主催者側の）と簡素化した報告やイベント： バナーセレモニーに始まった開会式も短く全クラブが壇上に上がり、その後続く東日本区アワーI では、理事報告、札幌からのユースアクション活動報告、YMCA 同盟による能登地震支援報告などありました。その後の記念講演の後、事業委員会報告や表彰の時間は短く簡潔に行われました。理事就任や役員引継ぎも通常の半分の時間で進みました。ぎりぎりの時間配分でしたが、やれば何とかなるものです。短い形でしたが、表彰はその年の成果やワイズ運動の豊かさを感じる大切な時です。各事業主任による表彰、そして理事表彰はこの区大会の最も大切な機会だと思います。奈良傳賞を得られた、池田正勝さん（十勝クラブ）と吉田明弘さん（東京西クラブ）、最優秀クラブ賞の川越クラブなど様々な表彰が行われました。これに加え、今年はゴールデンメンバー（ワイズ歴50年以上の現役メンバー）21人が表彰されました。この多くの先輩方は、90代でも現役のワイズメンとして活躍しています。これはワイズの誇りであり、特徴でもあると感じています。



2024年06月15日発行



代議員会で行われた意見交換： 代議員会では、理事報告、決算報告、次次期理事候補、次期方針や予算が主な議題でした。その後の質疑の時間に、重要で大切な質問が投げかけられました。その場で応えたものも含め、ここに理事の考え方のポイントを説明します。

1. 質問：理事の次年度方針はユース中心。東日本区内のクラブの中にはユース活動をしていないクラブも多い。そこに疑問を感じる。

理事の意見： 次年度の理事方針は、「ワイズの方向を見極める」としています。ユースエンパワメントをワイズの看板プログラムにすることが、長い目で見てワイズ再興のきっかけとなるのではと考えています。そのためにワイズ運動は、若い人たちの未来の成長（エンパワメント）のためになっているという実感を持てるようにすること。「ワイズは何をしている団体か」を誰もが感じられるようにすることが、より若い世代（ユースの親世代）の関心や参画を得るきっかけになるようにと考えています。ユースアクションはその一つですが、もっと多くの地域でこの活動が生まれるようにするためには、ワイズ側に資金力と YMCA や地元の団体との協力強化が必要になります。ワイズと言えば、ユースエンパワメントをしている団体を目指していくきっかけを作ります。

2. 質問：理事はじめ役員が多くが2年継続している。役員任期2年制がこれからのワイズの原則になるのか？ 次の役員のなり手がなく、さらに負担が大きくなるのでは。

理事の意見： 今年度もあと1か月弱となり、今年できた事より、出来なかったことが多いように感じます。また、今年目標をやりながら、修正してこうすればできると感じることもあります。これが2年任期なら、もっと形にできそうな気がします。同じことをマニュアルや定例のカレンダー通りにしてきたのが1年任期のワイズの在り方で、その在り方を見直す機会になっています。多くの理事スタッフ、事業主任など役員も継続しています。いわば、実験的取り組みです。次次期理事の山下さん（十勝クラブ）も同じく2年はやるという気持ちです。これが何かを変えるのではないのでしょうか。やってみてわかることかも知れません。うまくいくことが分かれば、制度として検討するのは数年後の課題になるのではないのでしょうか。

3. 質問：予算にあるサポート募金（120万円）には、しっかりした計画性がないのでは？

理事の意見： この5年間の東日本区の決算を見ると、単年度の赤字が約200万円ずつ出ています。この年度も、同じくらいの赤字となり、来年度には繰越金がマイナスになる可能性があります。会員の減少、為替が円安続きで、国際に収める額が全体の4分の1程度から2分の1程度になっており、収入が減り続け（会員減少）、支出が増えています（為替相場による）。急に区費を上げるより、次年度は財政支援献金を120万円予算化し、役員会とうの交通費補助額と役員活動費補助を約半減することも同時に行います。どうやって120万円の財政支援献金（サポートファンドと呼ぶ）を具体的に集められるのか、さらに検討を進める必要があります。個人でも、クラブ単位でも、様々な形でこのサポートファンドへの協力を仰ぐこととなります。また、ユース活動がさらに強化されることによってそれを支援する寄付や助成金を積極的に追及する道も生まれてくることを期待しています。寄付を得やすするためには公益法人化も検討する年にしたいと考えています。



以上、東日本区大会の感想とそこで多くの人たちとの交流を通して感じた事、今後のワイズ運動の在り方など感じている意見を述べさせていただきました。皆様のご協力、参画へ心から感謝します。

2024年06月15日発行

2024-2025年度 主題**東日本区理事 山田公平（宇都宮）**

主 題 : “Our Future Direction” 「ワイズの方向性を見極める」
 スローガン : “Youth Empowerment” 「ユースエンパワーメントを YMCA と共に」

国際会長 チャーミング・シェン（台湾）

主 題 : “Sunshine and Smile” 「太陽の輝きと笑顔」
 スローガン : “Simple is Beauty” 「簡潔さは美」

アジア太平洋地域会長 ジョウン・ウォン（香港）

主 題 : “Make a Great Impact” 「大きなインパクトを起こそう」
 スローガン : “Be Bold and Serve by Faith” 「大胆に、信念をもって奉仕しよう」

今後の予定

6月 臨時代議員会（お知らせを送ります）
 7月10日 前期半年報提出（部長、事務所宛て）
 7月13日（土）第一回役員会（Zoom）
 8月 臨時代議員会（お知らせを送ります）

入会者一覧

2024年3月・4月・5月

入会日	部	クラブ	入会者	紹介者・他
2024/3/11	富士山部	伊東	菅野 政典	榎本 博
2024/4/1	湘南・沖縄部	横浜	クロタカ マーク	大高 治
2024/4/1	湘南・沖縄部	横浜	クロタカ 明美	大高 治
2024/4/22	富士山部	熱海	渡邊 慎太郎	村上 達也
2024/4/15	北海道部	十勝	猪野 秀吾	山田 敏明
2024/5/13	富士山部	伊東	河島 紀美恵	金子 正樹

4

JEF 献金

2024年3月・5月

献金日	献金者	クラブ		金額
3月13日			次期会長・部役員研修	36,345
3月13日	清水 弘一	石巻広域		10,000
3月24日	小林 隆	熱海グローリー		10,000
5月1日	小林 隆	熱海グローリー		10,000

パレスチナ募金

ワイズへの募金	136,450
YMCA への募金	53,000
ワイズ+YMCA	189,450

能登地震募金

ワイズへの募金	753,418
YMCA への募金分	120,000
合計(+YMCA へ直接)	873,418